

重点施策8 人権文化の根づくまちづくりをめざし、あらゆる 差別、偏見を解消するための人権・同和教育の推進

【施策方針】

日本国憲法は、日本国民に総ての基本的人権の享有を認め、法の下に平等であることを保障している。この法の精神を人権・同和教育実践の中で養い、差別のない明るく住みよいまちづくりを推進するため、生涯学習の観点に立ち教育条件の整備と推進体制の充実、人権尊重の意識の高揚を図る啓発活動並びに人権に関する総合的な学習活動の推進に努め、人権啓発課とともに同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決に努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 市人権・同和教育研究大会の開催
- ② 人権問題学習講座の開催
- ③ 連合子ども会交流事業充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 市人権・同和教育研究大会の開催

毎年2月の第3土曜日に、市人権・同和教育研究大会が開催されている。午前中には、「就学前教育、社会教育」「小学校教育、行政、企業、福祉会館等」「中学校・高校教育」の3つの分科会が行われ、午後からは全体会として市民約1千名が参加して、小・中・高校生の代表による人権作文の発表、その後、公(講)演会が開催されている。26年度は、「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消をめざし、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」のテーマで、ジャーナリスト角岡伸彦氏による「差別はどうしたらなくなるか」と題して講演会を行った。

② 人権問題学習講座の開催

18年度までは、2地区公民館で4回ずつ計8回開催していたが、開催地区公民館の負担軽減と参加者の固定化を防ぐため、19年度から4地区公民館で2回ずつ計8回の開催に変更し、26年度は神山、川之内、千丈、江戸岡の4地区公民館において行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座の開催を心がけるとともに多数の方に参加していただくことをめざして、外部の講師を迎えての講座や生涯学習課から社会教育指導員を派遣し実施した。

③ 連合子ども会交流事業の充実

毎年、夏休みの初めに市連合子ども会交流会を開催している。これは、ふだん顔を合わせることの少ない他の地区の子ども同士が、子ども会を通して海水浴やゲームをすることで、仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことができている。

なお、26年度参加者は、総員39名で、中央公民館保内別館でゲーム、昼食を食べ喜須来小学校のプールで水泳を行った。ゲーム、水泳等で、子どもたちの交流を深めることができた。なお、夏に開催する子ども会は、教育委員会主催で行い、春に開催する子ども会は、人権啓発課主催で行っている。

【学識経験者意見】

○ 八幡浜市人権・同和教育研究大会は、長年継続され市民にも定着しており、学習の場としての成果を上げている。

午前の部は3分科会による問題提起、協議が行われ、午後は、全体会、児童・生徒による作文発表、講演会が行われ、1千名近くの市民が参加し、大変充実した意義深い研究大会となっている。

人権作文の発表では、例年は、児童・生徒（小・中・高代表各1名）であったが、26年度は、一般市民代表の作文発表もあり、市の人権・同和教育問題が一步前進したとの評価も得ている。

また、「差別はどうしたらなくなるか」という演題で、ジャーナリストの角岡伸彦氏による講演会があり、市の研究テーマである「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消を目指し、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」に迫る内容であった。

○ 地域での人権問題学習講座では、指定地区公民館4館が年2回実施し、指定外の公民館は年1回実施している。現地研修や、講師を招いての学習会など、地域の希望や実情に応じた学習講座が実施され、地域の人権学習の向上につながっていると思われる。

○ 連合子ども会交流会については、普段顔を合わせることはない他の地区の子ども同士が様々な活動を通して仲間意識を育むことができ、そのことがお互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことにつながる。「人権文化の根づくまちづくり」を目指す上でも、この連合子ども交流会は今後も継続していきたい事業ではないかと思う。

【自己評価】

□ 市人権・同和教育研究大会については、毎回1,000名近くの市民が一同に会して行われる人権問題を解決するための有意義な大会と考えている。今年度は、「差別の現実から深く学び、生活の中で差別を生み出す要因を明らかにし、差別の解消をめざし、地域ぐるみで、みんなの人権を確立しよう」というテーマでジャーナリストの角岡伸彦氏に「差別はどうしたらなくなるのか」と題した講演会を行い、あらためて人権意識を確認させられた。

□ 地域での人権問題学習講座については、参加者の底辺拡大に力を注ぐとともに「さらなる一歩」を踏み出せるよう関係団体とともに、今後の講座の取り組み方を考え、より推進できるよう努めたい。

- 連合子ども会交流会については、参加した子どもたちの元気な声、活動の様子を見ていると運営にあたる事務局としても苦勞を忘れる。交流会の中で発表される子どもたちの感想文や代表者の挨拶には、子どもたちの成長を感じる。今後もこの事業を推進し継続していきたい。